

重点9 生徒指導の充実

1 生徒指導

ねらい

園・学校では、全教育活動において、子どもの人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、将来において社会的に自己実現ができる資質や態度を形成しています。そのために、生徒指導担当者を中心とした指導体制のもと、全教職員の共通理解及び指導により、子どもたちとのふれあいを大切に、理解を深めるとともに心の絆づくりに努めています。また、幼稚園・小学校・中学校間の連携を大切にしています。さらに、学校・家庭・地域が、子どもの規範意識を育むとともに、情報を共有しながらネットワークを生かした協働連携を進めています。

現状と課題

不登校児童生徒数の推移

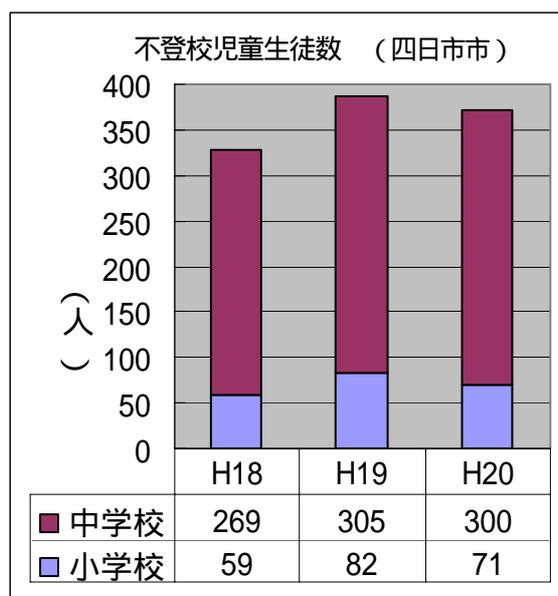
- 平成20年度における不登校児童生徒数は、371人で、平成19年度に比べて、若干減少しました。また、不登校人数は、学年があがるにつれて増加する傾向にあります。
- 「登校する」または「できるようになった」など、改善がみられた児童生徒は、小学校で71人中10人、中学校で300人中59人となっています。また、継続した登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった児童生徒は、小学校で21人、中学校で67人となっています。
- 不登校が継続している理由は、無気力型と不安などの情緒混乱型が多くなっています。
- 児童虐待（特にネグレクト）、発達障害、家庭崩壊などの影響から不登校になるケースが多いため、不登校のきっかけを見逃さず、発現した際の早期対応により予防を図ることが課題となっています。

不登校児童生徒発生率比較

		H18	H19	H20
小学校	四日市市	0.32	0.44	0.38
	三重県	0.36	0.34	
	全国	0.33	0.34	
中学校	四日市市	3.12	3.56	3.48
	三重県	3.02	3.01	
	全国	2.86	2.91	

発生率算出方法

不登校児童生徒数 / 在籍児童生徒数 × 100

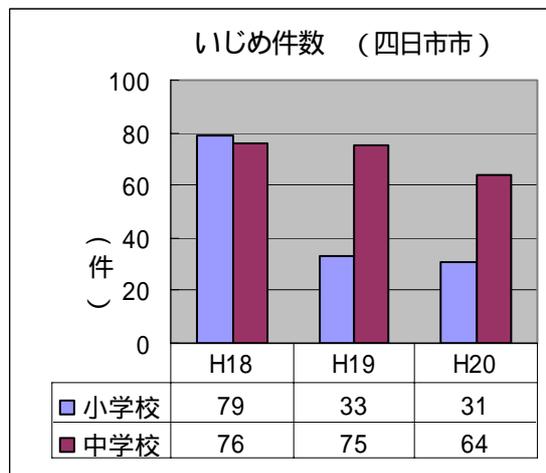


### 小中学校におけるいじめの状況

- 平成 20 年度は、市内全小中学校で、児童生徒が直接回答する「市独自のいじめ調査」により、いじめを受けたと感じている児童生徒に教育相談を実施していじめの状況を把握するとともに解消に向けた取り組みを行いました。
- 児童生徒が、家庭や学校で感じているストレスをいじめという行為により発散している現状があり、児童生徒の関係だけでは解決できない複雑さに課題があります。

いじめ件数

		H18	H19
三重県	小学校	346	194
	中学校	477	301
全国	小学校	60,897	48,526
	中学校	51,310	42,122

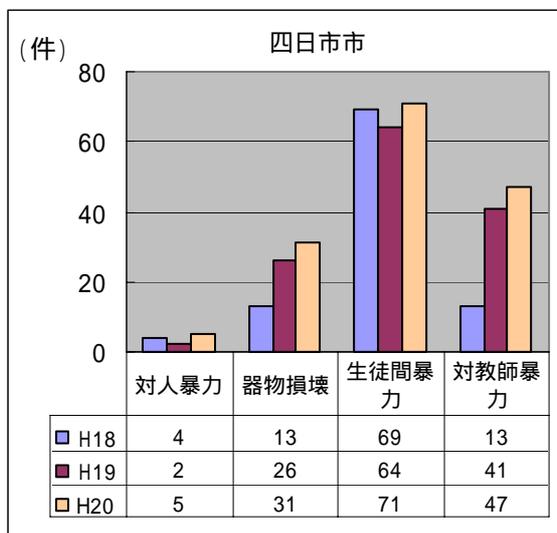


### 小中学校における暴力行為の状況

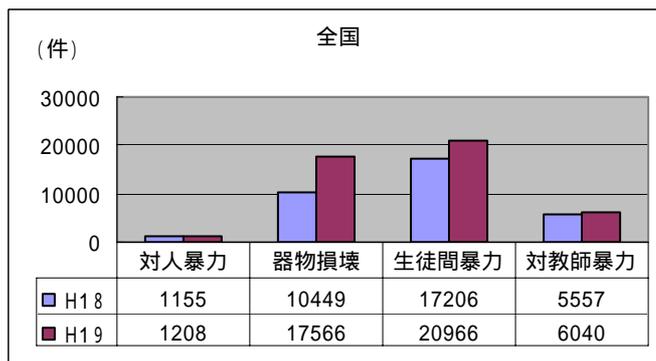
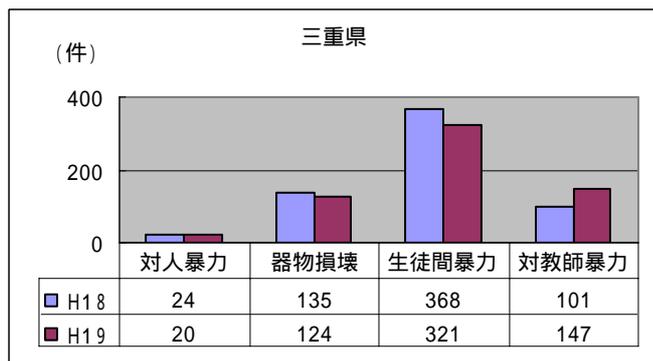
- 平成 20 年度の暴力行為は、154 件で、平成 19 年度と比べて増加しています。特に、一部の中学校において暴力件数が多く発生し、同じ子どもが暴力行為を繰り返すことが目立ちました。
- 学校の秩序を守るために保護者の協力を得ながら指導をしていますが、警察等と連携して毅然とした対応をとることに課題があります。

四日市市の状況

校種	年度	対教師暴力	生徒間暴力	器物損壊	対人暴力	合計
小学校	H18	0	25	3	0	28
	H19	2	1	0	0	3
	H20	3	4	1	0	8
中学校	H18	13	44	10	4	71
	H19	39	63	26	2	130
	H20	44	67	30	5	146

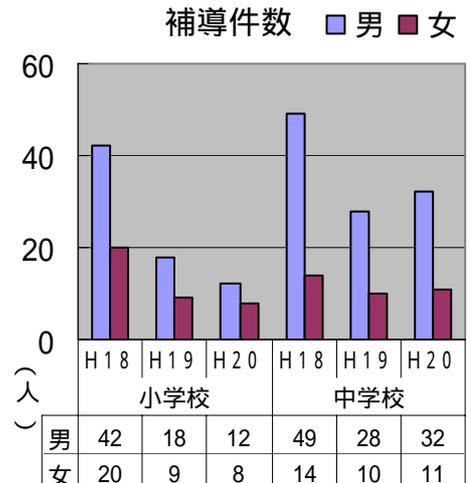


三重県及び全国の状況



### 補導活動

- ・ 青少年育成指導室の補導活動は、青少年の非行や問題行動を未然に防止し、健全な育成に資することを目的に、公園、駅、公園、カラオケ、ゲームセンター、大型店舗など青少年の多く集まる場所を巡回しています。
- ・ 平成20年度の補導件数は、192件ですが、小中学生は63件と全体の約33%で、増加しています。
- ・ 補導種別でみると、不健全娯楽が小中学生の補導件数の71%を占めており、夜6時以降、ゲームセンターでの小中学生への注意を促す声かけを行っています。
- ・ 補導件数のうち喫煙が125件と最も多く、傾向としてはカラオケ店や公園での喫煙が多くなっています。小中学生の喫煙行為は9件（昨年度9件）でした。
- ・ 午後6時以降に、中学生がゲームセンターへ出入りすること、中高校生、有職・無職少年が、公園で喫煙やごみの散らかしなどの行為を繰り返すことが課題となっています。

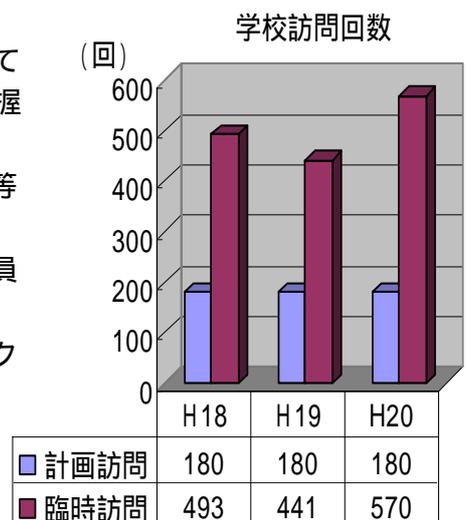


### 「学級集団アセスメントQ-U調査」の実施

- ・ 市内全小学校において408学級、児童数13,000人以上、市内全中学校において159学級、生徒数7,300人以上に対して、「学級集団アセスメントQ-U調査」を年間2回実施し、各学校は調査後に校内研修会を行い、不登校およびいじめの早期発見・早期対応を図りました。
- ・ 教職員が面談形式の教育相談活動を行うことにより個々の子どもの心をケアしたり、学級集団づくり活動を行うことにより子ども同士の関わりを深める仲間づくりを進めたりしました。
- ・ 教職員が調査結果を有効に活用するための研修を充実させることに課題があります。

### 校内生徒指導体制確立のための学校・園訪問の実施

- ・ 各学校・園の指導基準および指導方法等の指導体制について助言するとともに、各学校・園が抱えている問題を的確に把握し、その解決を支援しています。
- ・ 助言の必要な内容は、暴力行為、不登校、いじめ、万引き等の触法行為、児童虐待、発達障害等多岐にわたっています。
- ・ スクールカウンセラーや心の教室相談員の活用および教職員の教育相談力向上のための助言を行いました。
- ・ 児童虐待や発達障害、保護者の子育て不安やドメスティックバイオレンスに関する臨時訪問が年々増加しています。
- ・ 問題行動を起こす児童生徒および保護者への対応が多様化していること課題があります。



### 関係機関等との連携の充実

- ・ 北勢児童相談所、四日市南・北・西警察署、北勢少年サポートセンター、家庭裁判所、保護観察所、家庭児童相談室等福祉関係各課、男女共同参画課等の関係機関との連携を図るために訪問して情報交換等を行いました。
- ・ 生徒指導定例会と生徒指導担当者会にて問題行動の状況報告とともに対応について検討しました。
- ・ 四日市市子どもの虐待防止ネットワーク会議等で児童虐待の状況報告および対応について検討

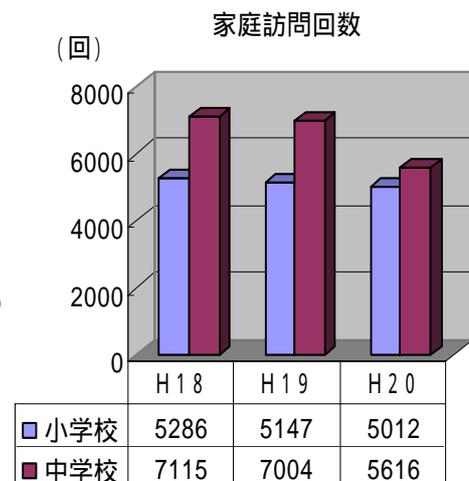
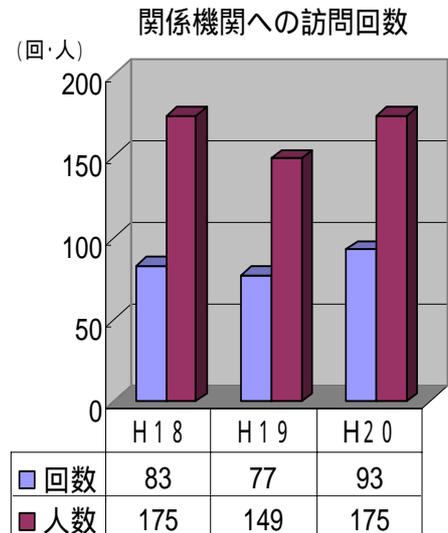
しました。ネットワークの機能を生かしたケース会議の開催により児童虐待や不登校、問題行動などへの的確な対応に努めています。

- ・ 四日市市学校臨床心理士会との連携が進んだことにより発達障害への対応や学校における事故等への緊急支援ができるようになりました。
- ・ 福祉関係や医療関係等とのより密接な連携の連携体制づくりに課題があります。

### 家庭訪問の状況

- ・ 様々な生徒指導に関する問題の解決には、保護者との連携が最も重要なことから、各学校・園では積極的に家庭訪問を行っています。
- ・ 問題行動が増加傾向にあることから、児童生徒や保護者と事実確認をしたり、今後の指導の方向性について検討したりすることが多くなっています。
- ・ 小・中学校ともに、同一の児童生徒への継続した家庭訪問数が多くなっています。

この調査は、勤務時間外の1時間以上にわたる家庭訪問数の結果であり、実際の家庭訪問数とは異なります。



### 今後の改善方針

いじめ、不登校、問題行動等の前兆を、「学級集団アセスメントQ-U調査」を活用するとともに、教職員による教育相談やスクールカウンセラー等によるカウンセリングを実施して的確に事実を把握し、仲間づくりや個別支援等について、教職員のチームを組み、実態にあった対応を図ります。

いじめの予防、早期発見、早期対応については、「『いじめ』に関する指導の手引」を活用し、いじめられる子どもの立場にたった把握をすることにより、いじめられる子、いじめめる子、はやしたてる子、周りにいる子、それぞれの立場の子どもを指導することが大切です。

発達障害傾向のある子ども、児童虐待（特にネグレクト）を受けている子どもへの早期および適切な対応に努めます。

平成20年度作成の「四日市市立学校における生徒指導の対応Q&A」や「信頼のある学校を創る 学校に対する苦情への対応」を教職員研修等で活用し、各学校が、児童生徒および保護者に理解と協力の得られる一貫した指導に努めます。

児童虐待については、民生委員・児童委員、主任児童委員等とともに情報を共有しながら、北勢児童相談所や本市家庭児童相談室等と連携し、四日市市子どもの虐待防止ネットワーク会議（きゃぷねっとY）を活用した対応を図ります。

社会体験や奉仕活動を通じて、子どもたちが地域住民といっしょに活動する機会を増やし、家庭や地域とともに子育てを行います。

学校づくり協力者会議等を活用して、校区の実情に応じて地域の方々とともに児童生徒の健全育成に努めます。

学校・家庭・地域が、子どもの規範意識を育み、「心のサイン」に気づき、情報を共有しながら協働連携を図ります。